

ホームページ掲載文章

【2015年4月から2017年9月の間に当院にて橈骨遠位端骨折にて診断及び加療を受けられた18歳以上の患者さんへのお知らせ】

課題名：掌側月状骨窩リム骨片の長さは10mm以内が安全か？

当教室では、川崎医科大学・同附属病院倫理委員会の承認を得て、2015年4月から2017年9月の間に当院を受診した、18歳以上の橈骨遠位端骨折の症例に対して、術前に施行したCTを電子カルテ上で骨片の大きさを計測します。橈骨遠位端骨折における骨片（掌側月状骨窩リム骨片）の大きさは、治療成績に大きく影響し、この骨片が小さい症例は治療に難渋するとされています。実際にどのくらいの骨折が影響するかは多数の意見がありますが、10mm以下とする意見が多いです。今回、実際に橈骨遠位端骨折の遠位骨片の長さを計測し、10mm以下の骨片の割合を検討しています。

1. 治療介入を伴わない「観察研究」で、既存資料のみを用いた研究であるため、新たに人体試料は採取しません。CT画像を利用し、骨片の大きさを測定します。個人が直接同定されうる情報は収集いたしません。
2. 患者さんに負担が生じることはありません。
3. 本研究では資金を必要としないため、利益相反は起こりません。
4. 研究に関してご質問がある方、また、対象の患者さんのうち、データを使用されたくない方は、下記までご一報くださいますようお願いいたします。

問い合わせ先：川崎医科大学脊椎・災害整形外科学 長谷川 徹
清水 総一郎

〒701-0192 倉敷市松島 577

TEL : 086-462-1111 FAX : 086-464-1175

電子メール : seikei@med.kawasaki-m.ac.jp